

燃やすごみと資源物を削減するために!

横浜市では、「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」を推進し、分別・リサイクルはもちろんのこと、ごみのリデュース(発生抑制)に取り組み、脱温暖化(温室効果ガス削減)を進めています。また、ごみ処理の安心と安全・安定を追及し、ごみのことで困らない住みよいまちの実現を目指しています。

現在、「ヨコハマ3R夢プラン第2期推進計画(26年度～29年度)」を進めており、生ごみ・プラスチック類・古紙の削減に重点を置いた更なる3R(スリーアール)の推進に取り組んでいます。特に、本市の燃やすごみの約4割が生ごみ

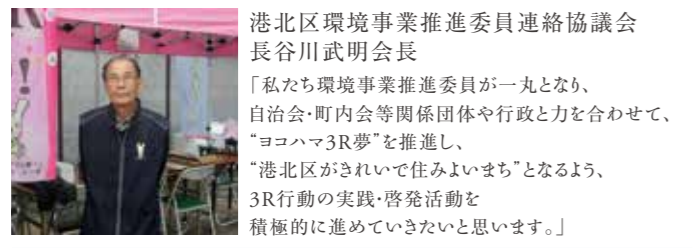
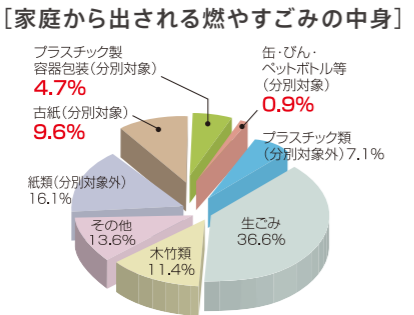
となっており、その中で何も手が付けられずに廃棄されている「手つかず食品」が家庭から多く排出されている現状から、「生ごみ・食品ロスの削減」の取組を重点として進めているところです。

港北区の燃やすごみと資源物を削減するため、自治会・町内会から推薦され、市長から委嘱された港北区環境事業推進委員297名(27年9月末現在)の皆さんが中心となって地域における3R活動を推進しています。

どのような活動を行っているの？

区民一人が1日に出すごみと資源物の排出量は604グラム(26年度確定値)です。27年度はこの数値を4グラム削減した600グラム以下とすることを目指しています。各家庭から出される燃やすごみには、リサイクル可能な古紙が約10%、プラスチック製容器包装が約5%含まれています。

環境事業推進委員の皆さんは、各自治会・町内会等の関係団体と密接な連携を取りながら、夏祭りや運動会等の地域イベントや「ふるさと港北ふれあいまつり」等の区イベントの会場などで、3R行動の実践・啓発活動を行うとともに、地域一斉清掃活動、不法投棄やポイ捨て防止等、まちの美化活動にも取り組んでいます。また、ごみ集積場では、早朝から「分別で分らないことはありませんか?」「生ごみの水切りをお願いします。」といった分別排出・ごみ出しマナーの啓発にも積極的に取り組むことで、ごみの減量化を図っています。



港北区のごみを減らすために

少しの工夫で、各家庭から出るごみと資源物は減らすことができます。まずは一人ひとりできることから始めてみましょう。「ごみと資源物の分別の徹底」「生ごみの水切り」「食品ロスの削減」など、港北区らしいエコライフスタイルの実践をお願いいたします。

環境負荷の低減を図り、豊かな環境を後世に引き継ぐことで、子どもたちが将来に「夢」を持つことのできるまち・港北の実現を目指して、「ヨコハマ3R夢プラン」を積極的に推進してまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



▲ふるさと港北ふれあいまつりでのごみの分別指導

イオ ミーオ 冷蔵庫10・30運動! ~10日と30日は冷蔵庫をチェックするゾウ~

毎月10日と30日(イオとミーオの日)は冷蔵庫の中をチェックする日にして、ムダに捨てられてしまう食材を減らしましょう!

「ヨコハマ3R夢」マスコット イーオ へら星人 ミーオ

横浜市の家庭から出される燃やすごみの中には、何も手が付けられずに廃棄された「手つかず食品」が、年間約**2万トン**(1人当たり約5キログラム)も含まれています。

こう ぼく え こ あ く し ょ ん つ う し ん

港北エコアクション通信

Let's enjoy KOHOKU eco life! 発行：港北エコアクション推進本部事務局 | 港北区区政推進課企画調整係 | 港北区地域振興課資源化推進担当 Tel.045-540-2230 Fax. 045-540-2209 Tel.045-540-2244 Fax. 045-540-2245



港北 ECO ACTION

写真に写っているのは一体何でしょうか?「あれ?日産スタジアムって、いつもこんな風に水に浮かんでいたのかな?」と思われる方いませんか?この風景は、平成26年10月に日本を襲った台風18号の後に撮影されました。どうしてこのようになったのでしょうか。その答えとともに、港北区内の様々なエコアクションをご紹介します。

画像提供：新横浜公園 フォトギャラリー

目次

- 新横浜公園(日産スタジアム)の“すごい”ところ ~これぞ適応策~
『新横浜公園(日産スタジアム)は港北区を守っている!?』【防災】
『「新横浜公園 四季折々のいきもの観察会」に行ってみよう』【環境】
- [TOPICS: 鶴見川はあばれ川だった]
- 無理せず、楽しく ~港北区役所屋上緑化グリーンサポーター~
- 「保育園で港北野菜をいただきます!」レポート
- [イベントのお知らせ: 省エネっておもしろい!?~市民から始める温暖化対策~]
- ~港北区環境事業推進委員の活動紹介~
燃やすごみと資源物を削減するために!
『どのような活動を行っているの?』
『港北区のごみを減らすために』
- [冷蔵庫10・30運動!~10日と30日は冷蔵庫をチェックするゾウ~]



新横浜公園(日産スタジアム)の“すごい”ところ ~これぞ適応策~

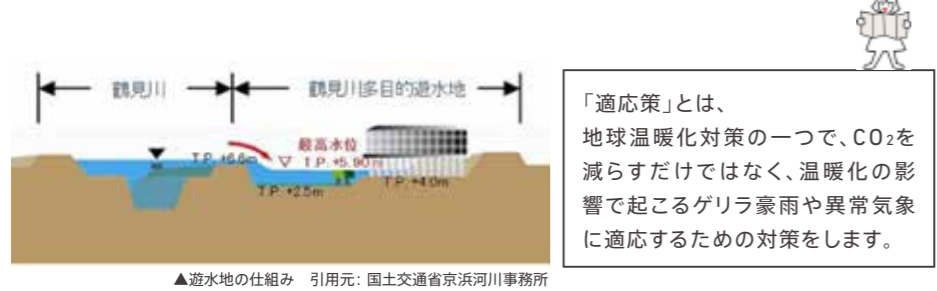
新横浜公園にある、横浜F・マリノスのホーム「日産スタジアム」は、サッカー日本代表戦やビッグアーティストのライブ会場をはじめ、さまざまなイベント対応をしています。最近では、2019年のラグビーワールドカップの決勝戦会場として使用されることが決定されました。ところで、日産スタジアムがある新横浜公園には隠された能力があることをご存知ですか？実は港北区民の生活を水害から守っているのです。ここでは、新横浜公園の知られざる“すごい”ところを、防災・環境に分けてご紹介します。

新横浜公園(日産スタジアム)は港北区を守っている!? 防災

平成27年9月には、相次ぐ豪雨により茨城県常総市で鬼怒川が氾濫し、甚大な被害を引き起こしました。そのような豪雨に備え、洪水を調節する仕組みが、遊水地です。新横浜公園は実は、「鶴見川多目的遊水地(通称:新横浜ゆめオアシス)」なのです。豪雨により、川の水位が上がると、一番低い越流堤から遊水地に水が流れ込み、川のピークの水を減らします。この遊水地は、国土交通省により全国に先立って進められた「総合治水対策」の一環として横浜市の公園事業等と協同で整備されました。

平成26年10月には、台風18号による豪雨によって、一部氾濫危険水位を超えましたが、鶴見川本川からは洪水氾濫せず、被害を少なく抑えることができました。その時、鶴見川多目的遊水地では、平成15年から始まった洪水調節の中で、過去最大の1,536,000m³もの洪水を調節したそうです。

このように、新横浜公園は、都市機能と融合して治水機能を高めるモデルとなるものであり、地球温暖化への適応にも役立ちます。



「適応策」とは、地球温暖化対策の一つで、CO₂を減らすだけでなく、温暖化の影響で起こるゲリラ豪雨や異常気象に適応するための対策をします。

▲遊水地の仕組み 引用元: 国土交通省京浜河川事務所



平常時



調節時

▲洪水調節前後の様子 引用元: 国土交通省京浜河川事務所

TOPICS: 鶴見川は「あばれ川」だった!

鶴見川はいくつもの大曲りがあるため、雨が下流に止まってしまう河口まで一気に流れず、昔は人々が暮らす場所や田畑にたびたび水があふれました。あばれ川と言われるほど、流域の人々を困らせていました。

戦後、経済成長に伴って、大雨の時に一時水をためていた森や田畑が都心のベッドタウンとして開発され、水をたくわえる力が減少しました。降った雨が一気に川まで流れるようになり、大量の水が集まることで洪水の危険度が急増しました。鶴見川多目的遊水地(新横浜公園)は、そんな洪水の危険から人々を守る仕組みなのです。



昭和13年の水害の写真です。左手が大倉山駅、右手がタバコ屋。菊名に向かう東横線の土手も写っています。(画像提供: 公益財団法人 大倉精神文化研究所)

鶴見川流域センターに行ってみませんか

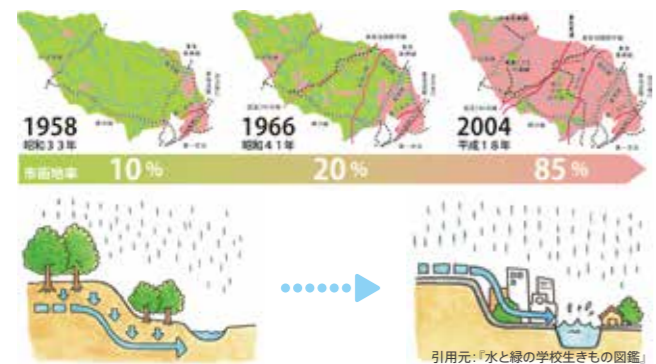
日産スタジアムの近くにある鶴見川流域センターは、水害や震災などの災害時の防災活動拠点として整備され、平成15年9月にオープンしました。

鶴見川の流域(バクのかたち)の航空写真や、川の生きものを集めた水族館などがあり、流域の治水防災や生きものを楽しく学ぶことができます。

イベントも毎月盛りだくさん!ぜひ親子で出かけてみましょう!

詳しくは「鶴見川流域センター」で検索。(10時から17時)、火曜休館
〒222-0036 横浜市港北区小机町2081

引用元:「水と緑の学校生きもの図鑑」



「新横浜公園四季折々のいきもの観察会」に行ってみよう 環境

日産スタジアムをぐるっと囲んでいる新横浜公園には、多種多様な生きものが生息しています。そんな生きものとふれあい、好きになってもらうとする取組が「新横浜公園四季折々のいきもの観察会」です。(株)春秋商事さん、(株)植宗エクステリアさん、藤沢造園(株)さんの協賛により行われているこのイベントでは、親子で楽しく自然や環境について学んでいただけます。

10月4日(日)には4回目となる「バッタの観察とオギのお世話体験」が行われました。市内の小学生とその保護者の方々が、バッタやカマキリ、キリギリスの仲間など、多種多様な生きものを

捕まえ、観察を行いました。その後はオギ(ススキに似た在来種)のお世話体験です。オギの天敵は、黄色く先が尖った形の花を咲かせるセイタカアワダチソウ。見た目はきれいですが、繁殖性が高く、オギの生態系を脅かしているそうです。最後に自分たちで採ったオギを使って、思い思いのフクロウづくりを楽しみました。

第5回は平成28年1月30日(土)(9時半~12時)実施予定の「冬の野鳥観察会」です。冬になると北の地域から新横浜公園にやってくるカモたちを観察し、野鳥について学びましょう!

＜協力＞NPO法人鶴見川流域ネットワーク



申込方法など詳しくは「新横浜公園四季折々のいきもの観察会」で検索

無理せず、楽しく ~港北区役所屋上緑化グリーンサポーター~

港北区役所4階に屋上庭園があるのをご存知ですか?ドアを開けると開放的な空間に、様々な植物が育っています。手入れをしてくださっているのは、区民ボランティア「屋上緑化グリーンサポーター」のみなさん。現在17名が3班に分かれて花植え・剪定・散水などの作業をしています。長続きのコツは、「無理せず、楽しく」。作業の合間のティータイムには、植物の話に花が咲きます。

平成15年に、屋上緑化やヒートアイランド現象への意識啓発を目的として整備された庭園の植物は、日ごろの維持管理のお蔭で元気に育っており、今年はケーブルテレビ・イツコム『沿線百景』(6月)や、JA横浜の情報誌『Agri横浜』8月号で紹介されました。春には第3回港北オープンガーデンの会場となり、訪れた方々にお花とハーブティーを楽しんでいただきました。また、秋には戸塚区役所にある南部農政事務所屋上農園の市民ボランティアの方々と見学会を開催し、情報交換を行いました。

区役所にお越しの際は、癒しの空間にぜひお立ち寄りください。



「日月桃(じつげつとう)」



「保育園で港北野菜をいただきます!」レポート

「保育園で港北野菜をいただきます!」といっても、園児が地元の野菜をおいしく食べました!という話ではありません。これは、今年の6~7月にかけて、区内の14の保育所で開催した、地域の親子対象の食育講座です。

JA横浜の協賛により、港北区内の農家で採れたじゃがいもを提供していただき、各保育園の調理師がじゃがいもを使った子どもの喜ぶレシピを紹介しました。紹介後は実際にじゃがいも料理を試食し、親子で楽しくおいしい講座となりました。

食育について学べるだけでなく、保育所の調理師を対象にJA横浜の職員の方を講師とした地産地消研修の実施や、食育講座で配布する地産地消に関するパンフレットの提供など、保護者も保育園の職員も一緒に地産地消について学ぶ機会となりました。

保育園では食育講座以外にも、園庭開放や育児講座など様々な子育て支援を行っています。ぜひ一度、保育園に親子で足を運んでみてはいかがでしょうか。



イベントのお知らせ:

省エネっておもしろい!?~市民から始める温暖化対策~

主催:横浜市地球温暖化対策推進協議会 共催:港北区役所
日時:平成27年12月12日(土)13時30分~16時30分
場所:港北図書館(申込不要 当日直接会場へ)
内容:・我が国の地球温暖化対策について(環境省地球環境局 吉野様)
・今こそ街に節電所を作ろう
(NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 山崎様)
・港北区での太陽光発電所と節電の取組について
(熊野の森師岡スタイル 肥後様)
・省エネチェックシートの取組について 他
問合せ先 横浜市地球温暖化対策推進協議会
TEL: 045-681-9910 FAX: 045-681-3934